

江州音頭だより

第 49 号

令和5年3月23日発行

滋賀県江州音頭普及会事務局

〒520-8577 大津市京町四丁目1-1 (滋賀県観光振興局内) TEL 077-528-3741 / FAX 077-528-4877

3年前、大会がコロナで中止になり、この間、活動の場や練習の成果を發揮できる場がなくなり、大変寂しい思いをしました。

今年度は、京都大会が9月17日に梅小路の野外で少し曇空でしたが、開催されました。

暑くもなく、一般客の人も沢山参加され踊って下さいました。天気の話が

やっと出来た
江州音頭フェスタinしが
江州音頭普及会活動実行委員会
委員長 田村 義子



も多く聞こえて来りました。

今回は、各一門会で発表会にしてみました。まだまだ人の前では唄えない人も、出演が出来てスポットライトで歌っている自分の景色を味わって音頭を好きになって、もっと勉強・練習しようと思っていたきたたく各々の一門会にしてみました。3カ月の人もいれば30年以上の大ベテランの人も出演していただき、各教室や部屋の色が出たと思います。踊り子さんも沢山踊って下さり、和気あいあいと楽しく盛り上がった1日でした。

皆様には感謝、感謝の気持ちでいっぱいでした。ありがとうございます。

なければ外での開催も、ええなあ〜と思いました。京都大会の出演者選出の事を考えなくて良くなりましたので、そしたら前回とまったく違う方向で思いました。コロナで練習できない、コロナで教室が借りられない、練習できなくて声が出ないと言った声



一番うれしかった事は、京都県人会の会長様が満面の笑みを浮かべ、千秋楽終了後、握手を一番に求めて下さり、有難うのお言葉を下さった。長い事音頭取りをやって来ましたが、こんなに喜んで頂いたのは初めてでした。ありがとうございます。

今年度もコロナ禍の中で、江州音頭界も強烈な影響を受けました。例年なら6月フェスタ、8月京都大会ですが、6月フェスタができず、12月開催という変則な事となってしまいました。フェスタに関する事は記事担当ではないので除くことにします。

京都大会は、過去開催地ではない梅小路公園。外での催しとなり、場所としては別段不満はありません。色々な方々の踊り参加、地元の方々に随時御参加頂き、盛り上がり、良かったのではないのでしょうか。100点とはいかなかったのが、今でも残念です。

第41回京都大会を
振り返って
玉家三代目 櫻川好玉会
櫻川好玉(竹岡虎通)

コロナ禍で、練習不足とは言え、音頭取りとしては、絶対には足りない、リズムが崩れた事。バックの方の気付きで、事なきを得たが、何が原因なのかをみんなで勉強しましょう。踊り連は、豊郷、八日市など各保存会や、大阪のスターダストの参加。一般参加者の中で、どこの住まいか聞きもらしましたが、素晴らしい身振り、手振りが華を添えてくれました。

今回、京都大会に初参加の音頭取りさんもおられました。全体的に音頭も踊りもお互いに盛り上げに頑張った事を感じたいと思います。

京都大会で何回太鼓を叩いたか忘れてしまいました。今年度の大会は、みやこめっせではない外の大会でしたので忘れられない事になるでしょう。

座敷音頭への挑戦

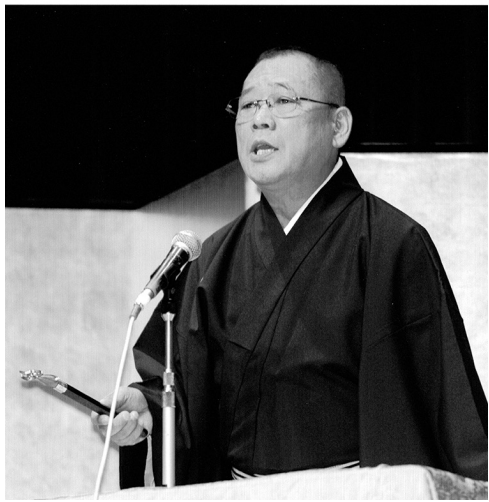
蓬萊家会
五代目 桜川 徳丸(伊藤 耕造)

東近江江州音頭会館で、座敷音頭を聴く会に出演しています。令和三年四年は一年に一度出演させて頂きました。令和五年度は三回の出演を予定しています。

少し昔のことですが音頭取りというのと、踊り音頭、座敷音頭が出来無ければ一人前の音頭取りと言われなかつた時代がありました。近年においては座敷音頭の要望が減少して出演する機会が少なくなりました。その時に会館館主より出演の話があり未熟ながらも出演させて頂くことに成りました。

出演する事に対して自分の目標として同じ演題は口演しないと決めました。聴いて頂く方には、未熟な芸に迷惑が掛かるかも知れませんが江州音頭とはどの様なものかと知って頂ければ有りがたいと思います。観衆が多ければ励みにも成ります。

踊り音頭も含め、江州音頭は芸であるという事を頭に置いて日頃の練習に精をだしていきたい。基本が大切我流では中々上達しません。皆さん一緒に頑張りましょう。



コロナが導いてくれたご縁に感謝

草津市
どんぐりさん(壇原 泉)

あゝさてはこの場の皆様へ〜ちよいと出ました私は〜南草津のどんぐりさんと申します〜わたしや不勉強でほどよく書けねども〜しばらくお付き合いをお願いします〜

2020年の春4月、今は亡き安倍さんが外出、飲食店営業の自粛を要請するメッセージを発して日本中の暮らしがコロナモードになりました。当時、市の教育委員を仰せつかっており例年なら入学式でピッカピカの一年生に出会えたのですが、せ〜んぶなくなりました。学校も2か月ほど自宅学習になりましたが、子どもたちも先生たちも、保護者の方も全力で乗り切っておられて、今思い出すと感動と感謝しかない状況が何か月も続きました。その年は修学旅行や運動会も中止が相次いで、ほんとうに胸が痛む日々でした。それから2年半たちました。東京・平昌オリパラ、ワールドカップも開催され、すこしずつ以前の日常に向かつて来ているとはいえ、ロシアのウクライナ侵攻やコロナの第8波などの影響が社会に影を落としているのも事実ですから、日本中、世界中が「何かモヤモヤが、ず〜と溜まっている」という世の中でございます。

でもでも、しかししかし、このコロナ禍がご縁で新たな出会いが生まれたこともあったのではないのでしょうか？実は、私が「江州音頭の音頭を取りたい」と強く思えたのも、コロナで毎年行われていた地元のサマーフェスティバルが中止になり、「今年江州音頭を踊れない」ということをすごく悲しく思ったことがきっかけでした。私にとって、「年一回江州音頭を踊る」ことは、子どものころからの楽しみでした。

そしてその大切さを思い出させてくれたのは、他ならぬコロナでした。そして「江州音頭をこれからもずっと続けていくためには、私もただ踊るだけではなく、音頭取りにならなくちゃ！」と決心するに至りました。ですがここから大きな問題が発生しました。それは師匠探しです。誰に教えてもらえるの？ネット検索したり、YouTubeを見たり、地元の方に聞いて、どなたか師匠を紹介してもらおうと動いたりしましたが、ご縁はなかなかつながらりませんでした。それから半年以上たつて、知人のシンガーソングライターまつうらようさんに相談したところ、とうとう今の師匠(櫻美家天勝師匠)に巡り合うことができました。本当にありがたいことでした。週一回の練習で、天勝師匠の言葉は、まさに「天の声」として身体中に響きます。率直なダメ出しの言葉も、私にとってはとても心地よい叱咤激励なのです。師匠、これからもますますお元気でビシビシお願いいたします。(最敬礼)

ここで、私の目標を発表します。私の目指すところは、「(いくつかの) 地元の題材を読み込んだ音頭をしつかりと学んで、師匠からOKが頂けるようになること」と、「次の世代へ江州音頭を引き継いでいくこと」の二つです。還暦を過ぎてからのスタートなので、どこまでやれるかは正直言つてわかりませんが、「近江の風流踊り」が世界文化遺産に登録されるのですから、「江州音頭はもつと上」を目指したいと思うので、及ばずながら私もその一助になりたいと思います。(世界文化遺産の上があるかどうかは知りませんが、笑) ということで、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

あゝさてはこの場の皆様へ〜まだもまだもと思えども〜ここで留め置く次第なり〜

活動状況報告

滋賀県立大学 湖風祭実行委員会
藤原 仁一郎

私たち滋賀県立大学湖風祭実行委員会は、毎年6月に開催される大学祭「湖風夏祭(うみかぜなつまつり)」に11月に開催される大学祭「湖風祭」の企画・運営を行っています。

その他にも新入生歓迎イベントの企画・運営や、地域のイベントへの参加・運営のお手伝いなど様々な活動をしています。

2022年11月5日(土)6日(日)には、「第28回湖風祭 Revival」が開催されました。新型コロナウイルスの影響で2年間対面で実施することができなかった湖風祭が復活しました。両日とも多くの方に参加して頂き、盛況のうちに終わることが出来ました。



江州音頭フェスタ inしが 2022 にも参加いただきました!

寿賀通家 三代目 桜川小寿賀富士襲名披露

壽賀通家一門
三代目 桜川小寿賀富士(羽瀧 清信)

このたび、二代目桜川小寿賀富士師匠(小川正一氏)の芸道五十年を節目に、小寿賀富士の名跡を継承する事と相成り、昨年十月二十三日に襲名披露を務めさせていただきました。今後は小寿賀富士の名を汚さぬよう精進して参る所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

以前にも申し上げましたが、私と江洲音頭の関係はと申しますと、祖父が故初代桜川寿賀富士、父が故初代桜川小寿賀富士という家系に育ち、併せて、江洲音頭界では大変有名な双子姉妹の音頭取りで、昭和天皇の前で初めて江洲音頭を披露された、故桜川奈美子師匠、貴美子師匠が大伯母様にあたります。祖父、父、大叔母様、二代目師匠そして寿賀通家一門の皆様が脈々と江洲音頭の伝承普及に努めてこられたことに、私も先代に負けないようこれからも守り語り継いでいかなければいけないと思っております。

ご存じのとおり江洲音頭には、櫓音頭(踊り音頭)と、座敷音頭があり、座敷音頭と大変難しいと私も身に沁みて感じております。このままでは座敷音頭の灯が消えてしまうので、はと危惧しており、練習を重ねている所です。



三代目 桜川小寿賀富士襲名披露

このような古典芸能であるこの江洲音頭の灯を絶やすことなく、更に精進して、本当に味のある正調の江洲音頭を伝承していくことが、私の務めであるように思っております。

襲名を記念して、座敷音頭と櫓音頭を二代目師匠と共にCDに収録しました。機会があれば聞いて頂ければ幸いです。



活動報告

三代目 眞鍮家文好(小椋 祥行)

1. 聖徳太子1400年忌の11社寺で秘仏御開帳に合わせ聖徳太子音頭を披露する
2. 地域やコミセンのイベントで座敷音頭と聖徳太子音頭を披露
3. 平和堂さんの改装オープン(10月29日)にあわせてセントラルコートに櫓を設置して、11時、13時、15時の3回(3時間)18人が音頭をとる
4. 江洲音頭会館で毎日一回(第一日曜日)座敷音頭を聴く会の催し
5. 座敷音頭2題と聖徳太子音頭を3社寺(地域の団体など江洲音頭会館に招いて座敷音頭と聖徳太子音頭を披露
6. 座敷音頭を広めるため一門の人に教えている。
7. 市内の小学校へ音頭と踊りを教えに行く。(市原小学校、箕作小学校、蒲生西小学校)
8. 「音健アワード2022」の動画募集があり応募して171の応募の中上位10位入賞する(老人ホームやデイサービスなどで椅子に座ってでもできる体操で江洲音頭のリズムに合わせ鳴子をもって体操をするもの)

9. 地域の歴史を掘り起こし、作詞作曲しCDにする
10. 市内の野球チーム(全国大会出場)の応援歌の作詞と音頭

法要式典での江洲音頭披露

豊郷町江洲音頭保存会
竹川 富美子

去る11月27日(日)、初代伊藤忠兵衛120回忌・2代目伊藤忠兵衛50年忌の法要式典が、豊郷町八目の「くれない公園」で行われました。

江洲音頭は、厳粛な場所でも踊られ、楽しさや苦しみを音頭を通して、人と人の心をつなぎ、長く受け継がれてきたのだと思えました。そして、まだ4年目ですが、いろんなイベントに参加・出演して、多くの人と巡り合い、親交を深めることができ、私自身も元気を頂いています。

これからも、江洲音頭発祥の地の保存会の一員として後継の人材を育て、伝統を守っていきけるよう頑張ってまいります。



活動報告

守山江洲音頭保存会
近江富士麗湖(西本 麗子)

現在週二回音頭の練習日を設け、練習をしています。毎年、夏になると「夏まつり」に招かれて櫓の上で唄います。櫓の上から見える皆さんの顔はとっても楽しいように見えます。日頃、ゆつくり出会えない人たちが集い、話し、飲食し、踊るとしても良い機会です。また、高齢者施設のつどいに招かれて唄いだすと、車いすに乗ったお年寄りがにこにこして、身を乗り出すように、腕を振り、体を動かしておられます。とてもうれしい場面です。小中学校の児童、生徒の皆さんは楽器の鳴らし方や踊りの説明、唄い方に興味を持ち、一緒に鳴らし、唄い、踊ってくれます。

楽しみながら思いを同じくし、元気に唄うことができる音頭仲間の私たちは、これからも江洲音頭という素晴らしい伝統芸能を絶やさないように広め、伝えていく役割の一端を担えたらと思っています。コロナ禍の今、思うように活動出来ないことを残念に思い、早くコロナが収束することを願っています。



「ふるさと祭り東京2023」で江洲音頭を披露!

ふるさと祭り東京

豊郷町江洲音頭保存会
会長 藤野 恵津子

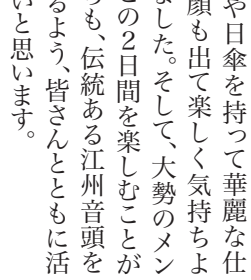
日本の「まつり」と「故郷の味」が集う大祭典「ふるさと祭り東京」が、3年ぶりに東京ドームで開催されました。

日本の祭りを楽しもう、一度は見たい全国各地のお祭りを、と、各地方からお客様も集結されました。



滋賀県の江洲音頭は、今回初めての出演で、去る1月16日(月)、17日(火)の2日間、迫力あるあの東京ドームの広い場所で披露することができました。

江洲音頭は、滋賀県と東京方面からの参加人員で総数70人ほどとなり、太鼓の音とともに音頭取りの歌声が響くなか、江洲音頭が始まりました。



豊郷町からは、扇や日傘を持って華麗な仕草のなか、自然と笑顔も出て楽しく気持ちよく踊ることができました。そして、大勢のメンバーとともに踊り、この2日間を楽しむことができました。これからも、伝統ある江洲音頭を活性化し、伝承されるよう、皆さんとともに活動を続けてまいりたいと思います。

「ふるさと祭り東京」江洲音頭披露の旅!!

龍神家一門会
櫻川 花山(立花 守)

令和5年1月16日から17日にかけて、滋賀観光バスで八日市(営)から東京ドームに「ふるさと祭り東京」でのフジテレビ出演に豊郷チームを含め27名が出発しました。事前に江洲音頭とはどういうものかDVDを送り視聴して頂きました。民謡なのか、お経の節か何のテーマの歌なのか言葉の内容が観客には伝わらないとの返事があり、どうしたものかと思案しましたが、これが滋賀県の郷土芸能だと知らせるしかないと思いつく大きな声と豊郷チームの手踊り&扇子踊り&傘踊りの豪華版を披露して楽しんで頂きました。またふれあいタイム広場でのイベントでは「江洲音頭発祥の地」と書いた大きな団扇を100枚配り一般参加者に隔って頂きました。

大きなイベントが無事に終わりホッとした次第です。またこれから色々なイベントに積極的に参加して江洲音頭を全国に発信したいものです!!



何とか参加出来た、ふるさと祭り東京

滋賀県江洲音頭協会
桜川 捨晴(木村 晴夫)

2023年1月16日(月)、17日(火)東京ドームに江洲音頭で、ふるさと祭り東京に参加しました。日本盆踊り協会より、全国ふるさと祭りに出ないかと協会に打診がありました。



参加条件は、出演料100万円、50名以上参加との事、主催者フジテレビと東京ドームとの交渉の結果、出演料は免除、広いステージの為、東京ドームの出演のデザインはドームの要請にしたがう、「人数は確保すること」で出演の契約書をかわしました。人数確保の為、協会の会員が東京の知人、和太鼓の会、県人会、県東京事務所、又、日本盆踊り協会様にも出演依頼しました。出演者は、その日の衣装と「事」との要請であり、県普及会が作った浴衣、法被を参加者とは別に40着準備しました。

又、打合せは先方の(株)東京ドーム興行企画部様と今流行りのリモート会議、メール連絡で行いました。今回、滋賀からの参加者は若い人から高齢者27名、東京出演協力者は40名で計約70名で参加することができました。今回は東京ドームのグラウンドの中4つのベースを舞台とした特大きな舞台でもあり、音頭取りさん、踊り子さん、すなわち、大津保存会さん、眞鍮家さん、豊郷町保存会さんの協力頂き有難うございました。

6分間の出演と幸先の良い出来事

よし乃家
松本 隆

我々一行(28名)は今年1月16日、17日にかけて、東京ドームのふるさと祭り東京に出演した。出発は16日の午前8時15分ごろバスで彦根を出発、2、3の休憩を取り、出演予定の確認などを行いつつ、午後2時すぎ東京ドームに到着し、会場の段取りの用意をする事とともに、すばやく着物に着替え、午後3時40分から出演した。

ドームアリーナのステージは大きく長さ30m幅が10mで高さは3mを少し超える規模だった。舞台の背面には20m×10mほどの大きなプロジェクト画面を備え、両脇には高さ10mぐらいの巨大なスピーカーが設置されていた。音頭は「大阪の棋士坂田三吉が東京の王将関根金次郎との対決物語」で、精一杯、私の持ち時間約6分間を踊り子さん達の協力を得て歌わせてもらった。見学者は向かいの観覧席で、東京からの参加者も含め70名に近い踊り子さん達(輪は約40mぐらい)を眼下に見つ、ステージに立った我々は強力なスポットライトを浴び、全館に響き渡る大きな音量のスピーカーから出る私の声の音圧迫力は体が身震いするほど強力に跳ね返り、背面の画面を見る余裕は全くなかった。正直言って今までの音頭人生最大の出来事で、味わったことのない充実感をもって歌い終えた。

今年もウサギの様にこの手応えをチャンスに更なる音頭に精進しようと思いを定めた。今回のイベントに出演し、全国に江洲音頭の普及に貢献できたかな。最後に本大会の計画から実施に向けて、長期間大変ご苦労とお世話していただいた滋賀県江洲音頭協会理事長様、並びに関係役員の方々にお礼を申し上げ報告いたします。



子ども向け 江州音頭教室情報

各団体では、主に小学生・中学生向けに江州音頭教室を開催しています！各学校への出張教室も行っていますのでお気軽にお問い合わせください。



大津江州音頭保存会

講師：松本 円教 場所：大津市役所 逢坂支所
教室名：大津駅前教室 と き：水曜日 16:00～18:00
対象：小学生・中学生 受講料：無料
連絡先：桜川 伯山 (090-8146-9818)

三代目 真鍮家文好一門

場所：各小学校 教室名：各小学校音楽授業
時間：2時間 受講料：無料
連絡先：東近江 江州音頭会館 (050-5801-1169)
小椋 祥行 (090-1487-2579)
備考：八日市江州音頭保存会の踊り子さんも一緒
東近江市市原小学校、蒲生西小学校、箕作小学校(令和4年度実施)

豊郷町江州音頭保存会

講師：藤野 恵津子 場所：豊郷町 豊栄のさと
教室名：豊郷町江州音頭保存会 毎月第3金曜日
子ども教室 と き：19:30～21:00
対象：小学生・中学生 受講料：無料
連絡先：豊栄のさと 社会教育課 (0749-35-8010) 担当：後藤
備考：扇踊り、日傘踊りの練習

令和4年、私達の会は充実した年であった。先ず、6月には全国植樹祭に参加した。国の事業であり、数々の制約があったが、無事その責任を果たすことができた。8月には、京都梅小路でのフェスティバルに参加。コロナ禍で人数制限もある中、甲賀市よりバスも出していた。希望者を送り出すことができた。10月には、甲賀市碧水ホールでの津軽三味線と伊勢音頭の鑑賞の機会を得、その前座として、何と私たちに出演依頼をいただいた。ここでは、江州音頭を通して甲賀市を表現したいと考え、かつて栄えた東海道の宿場町としての甲賀市をアピールするナレーションと共に、茶摘娘や忍者、たぬきに変装して江州音頭を披露した。主催は、土曜日の子ども達の支援を目的として活動している「夢の学習」であり、全員が「夢

活動報告

あいの土山江州音頭普及会
福永 昭子

活動は、継続は力なりであると痛感した。令和5年も江州音頭の更なる発展と皆様のご多幸をお祈りします。

江州音頭

うさぎもはねる
年始む

音頭を待ち構える 熊野寮の踊り子さんたち

桜川 昇鸞(高田としよ)
昇山会

櫓から下りると掛け寄って来た女性達は、「生の音頭で久しぶりに踊れて楽しかったあ。」「気持ち晴れたわ。」と私の手を取りお礼を言ってくれました。

三年ぶりの音頭を披露できたのは令和四年五月。私達はコロナ禍も練習は続けていたものの、不安で力も入らない時も越え、いつか開催されるその時にと気を引き締めていました。久しぶりの舞台は京都大学の熊野寮。所狭しと屋台やフリーマーケットなどの大賑わいでコンサートの後に音頭の番となりました。踊り子さんは若い方ばかりで見よう見まねで踊る方、個性的な踊りをされる方など弾んでおられる様子に、音頭取りも時間の来る迄一杯務めさせて頂きました。踊り子さんのキラキラした目と仲間の櫓から下りてほっこりした顔は今もはつきりと覚えています。

昇山会は昨夏四ヶ所音頭を取らせて頂きましたが、開催して下さった方々に厚くお礼申し上げます。

五年度は各地で賑やかに夏祭りが開催されますことを心より願っています。

江州音頭だより 第49号 編集委員

伊藤 耕造 / 小椋 祥行 / 高田 としよ / 竹岡 虎通
立花 守 / 田村 義子 / 松本 敦三 / 横井 茂人 (五十音順)

編集後記

会員の皆さまから活動報告など、たくさんのお便りをいただきありがとうございました。紙面作成にあたり、いただいたお便りの一部を事務局で変更させていただいたことをお詫び申し上げます。引き続き、会員の皆さま方の活動報告や近況など、原稿をつぎの宛先までどしどしお寄せください。

〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1-1 県庁観光振興局内
滋賀県江州音頭普及会事務局
TEL 077-528-3741 / FAX 077-528-4877

みんなと一緒に楽しく踊りましょう!

江州音頭フェスタ

inしが 2023 開催決定!!

日時：令和5年 **6月11日(日)** **13時** 開演 **入場 踊りの一般参加 無料**

場所：**碧水ホール**
甲賀市水口町水口5671

新人音頭取りさんもフェスタに出演しました!

江州音頭フェスタinしが2022が初舞台となった新人音頭取りさんに感想と今後の抱負をうかがいました!

思い出の江州音頭

三代目真鍮家文好一門
横井 茂人

ドン、ドン、ドン!どこからか太鼓の音が聞こえて来ます。「わあ、江州音頭がはじまった」ワクワクしたものです。「町内会のお祭りも早く来ないかなあ。行きたいなあ。」幼少期の私は毎年夏が来る度、江州音頭が楽しみで仕方ありませんでした。お祭りが始まると祖父と一緒に必ず行つては踊りの輪に入ったものです。父から祖父は江州音頭がとても上手かったという話を聞きました。

ちなみに最近の話ではございますが、現在練習中の歌詞を父に見せたところ、突然父が歌い出してびっくりしました。父の歌う姿を見たことはありませんでした。

大人になっていくに連れそんな記憶も薄れていき、定年まで片手で数えられる歳となった今、何故か江州音頭のフレーズが頭に浮かぶ様になったのです。

太鼓の音、踊りの輪。そして音頭取りの歌声、記憶が蘇りとても楽しい気持ちになりました。そう思い三代目真鍮家文好師匠のもとを訪れました。江州音頭の歴史や由来等を丁寧に説明していただき、「唄は興味あるのんか」と聞かれ「興味あります」と言う「ほなら練習しなさい」と仰つて下さり稽古が始まりました。まだまだ修行中の身分ではございますが、勉強の為とイベントで歌わせて頂く機会も作つて下さり、おこがましくも大変有り

感想ならびに抱負

三代目真鍮家文好一門
辻本 充彦

東近江江州音頭会館で音頭取りの修行を始めてもらつてから、二年余りでの初舞台となりました。滋賀県におけるこの伝統芸能の「層の厚さ」と圧倒的な生命力に、フェスタで触れさせていただいて、改めて驚愕させられております。「デロレン祭文」の謎めいた節回しに惹かれて、その歴史に興味を持ったことが、江州音頭と出会ったきっかけでした。行く行くは座敷音頭なども習い覚えてゆきたいと思っております。皆さん、よろしくご鞭撻のほどお願い致します。

初めて江州音頭フェスタに参加させて頂いた

玉家三代目横川好玉会
山川 和真

今年初めて江州音頭フェスタに、出させて頂くことになったのは、好玉師匠に声がけを頂いたからです。江州音頭に興味を持ったのは、錫杖に魅せられたからです。あつちこつちへ問い合せて、錫杖を手に入れて、たずね歩いた会派の中で、「錫杖振るなら、自分の時に振るものやろ。十二月にフェスタがあるからそこへ出てみなさい。」と言われ、こんなぼくにもできるのかなと思いましたが好玉師匠に自分の悪いところを直して頂きました。なんとか音頭が良くなってよかったです。

フェスタ本番は、自分の出番が近づくと緊張してきて失敗したらどうしようと思いましたが、なんと自分なりに音頭が取れたので、良かったです。有難うございました。

これからも頑張ります。よろしくお願います。